

論文審査の要旨

筆頭著者（学位申請者）氏名

鈴木 祐

主論文の題目
および
掲載誌・審査委員

題目 Prehospital triage for endovascular clot removal in acute stroke patients.（急性期脳梗塞患者における血管内血栓除去療法の病院前トリアージ）

掲載誌 Acute medicine & Surgery 2017; 4: 68-74

主査 平 泰彦
副査 松田 隆秀
副査 伊藤 英道

[論文の要旨・価値]

急性期脳梗塞の治療として、確立された経静脈的血栓溶解療法（intravenous recombinant tissue plasminogen activator: iv-tPA）に加えて血管内血栓除去療法（以下血管内治療）の有用性も注目を集め、血管内治療も考慮した地域救急搬送体制の再考と確立が求められている。著者らは、救急隊が現場で実施する MPSS (Maria Prehospital Stroke Scale) の血管内治療実施予想因子としての妥当性を川崎市で蓄積されたデータで検討した。

2012 年から 3 年間、現場で MPSS によりトリアージされた 2031 症例を対象とし、搬送先施設 KSN (Kawasaki Stroke Network) の 12 病院を血管内治療実施常時可能病院 (CSCs ; 1,466 例(72.2%)) と非常時可能病院 (PSCs;565 例(27.8%)) に分けて検討した。治療成績は mRS (modified Rankin Scale) で算出した。脳梗塞診断率は両病院群ともに 50%を超え、血管内治療は全症例中 113 例に行われ、CSCs での実施率が高率だった。1 か月後の mRS による治療成績は両群で差はなし。MPSS=1 の血管内治療実施率 OR=1 とすると MPSS 3:2.914, 5:11.459 と MPSS 高値ほど実施率は高かった。血管内治療実施予測精度は救急隊の MPSS と病院で医師による NIHSS とは ROC 解析で同等であった。ロジスティック回帰分析で MPSS 値と搬送病院先の別が血管内治療実施の独立因子であった。

急性期脳梗塞の判断基準として MPSS の意義は広く認められている。本論文は iv-tPA に加えて血管内治療実施の予想としても MPSS は有用であることを示した。脳卒中疑い例の救急搬送体制に寄与する重要な論文であり、学位取得に十分に値する論文である。

[審査概要] 17/02/21 審査員 3 名と陪席のもと、約 20 分の発表を行った。スライドは簡潔で要を得た内容で、口演も理解しやすいものであった。MPSS と NIHSS との関係、血管内治療単独の適応、MPSS 高値症例を総て CSCs 搬送とすべきか? など多岐にわたる質疑応答がなされ、鈴木君は幅広い専門的知識を背景に適切に回答し、今後の方針なども提案した。

最終試験結果の要旨

[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価]

本研究の仮定の設定、方法、解析を自ら実施しており研究能力を十分に持つ。質疑応答では関連領域の知識も豊富であることを示した。血管内治療の有用性を示し、本研究の契機となった英語論文を和訳し、英語力も十分であった。発表態度も真摯で誠実な人柄と印象づけた。学位授与に値する医師と判断した。